

# 文化遺産の視覚化に関する 日本とエジプトの共同ワークショップ —ミュオグラフィと情報科学—

開催日程：2018年7月13日（金）～15日（日）

（於駒澤大学深沢キャンパス 120周年アカデミーホール，講義室 2-1）

## 第一日目

13:00-13:10 「開会の辞」長谷部八朗（駒澤大学学長）

13:10-15:10 「基調講演」

1. 「ファイユームにおける古代建造物の発展過程への ICT の応用」カーリド・ハムザ（ファイユーム大学学長）

2. 「ミュオグラフィ、日本、エジプト、イタリアの例」田中宏幸（東京大学地震学研究所教授）

15:10-16:00 「休憩」

16:00-17:00 パネル・ディスカッション（ハムザ、オムラン、田中、角谷、大城）+ 司会（青木）

17:30-19:30 懇親会（深沢キャンパス小ホール）

## 第二日目

1 部 「文化遺産とツーリズムとの相関」

10:00-10:30 「埼玉古墳群について」酒井清治（駒澤大学文学部教授）、角道亮介（駒澤大学文学部准教授）

10:30-11:00 「古市古墳群について—世界遺産登録に向けて—」寺前直人（駒澤大学文学部教授）、三好玄（大阪府教育庁文化財保護課主査）

11:00-11:30 「百舌鳥古墳群の巨大古墳—近年の調査成果を中心に—」海邊博史（堺市文化財課主査（学芸員））

11:30-12:00 「奈良明日香村の遺跡群について」青木真兵（神戸山手大学現代社会学部非常勤講師）

12:00-13:30 昼食休憩

2 部 文化財の保護：調査と保存

13:30-14:00 「エジプトの遺跡保存と調査のための三次元計測」金谷一朗（長崎県立大学情報システム学科教授）

14:00-14:30 「ラフーンのピラミッドの CG 化と耐震構造問題」大城道則（駒澤大学文学部教授）、市川泰雅（CG アーティスト）

14:30-15:00 「アクミムのエル=サラム=遺跡の壁画保存について」ワヒド・オムラン（ファイユーム大学准教授）

15:00-15:30 「休憩」

15:30-16:00 「プトレマイオス朝時代の神殿柱の三次元測量」菊川匡（古代エジプト美術館研究員）、市川泰雅（CG アーティスト）

16:00-16:30 「文化遺産の景観への GIS の応用」モハメド・アブ・ショウク（ファイユーム大学講師）

## 第三日目

3 部 文化遺産の視覚化によるツーリストへの透明性の向上

10:00-10:30 「歴史遺産の可視化とインタラクティブコンテンツ—大阪の例—」林武文（関西大学総合情報学部教授）、角谷賢二（国際美術研究所所長）

10:30-11:00 「地域の魅力を発信するための地図アプリとコンテンツとの連携」堀雅洋（関西大学総合情報学部教授）

11:00-11:30 「古墳研究に使用する機器の過去と現在—ミュオグラフィに期待すること—」米田文孝（関西大学博物館館長）、井上主税（関西大学文学部准教授）

11:30-12:00 「古代エジプトの考古遺跡の視覚化へ向けて」大城道則（駒澤大学教授）、遠藤颯馬（駒澤大学博士課程）、小林慧（駒澤大学博士課程）

13:00 散会

主催：駒澤大学

本セミナーは、JSPS 二国間交流事業の助成を受けて実施いたします。

資料提供：堺市世界文化遺産推進室

\* 全日程どなたでも参加自由（懇親会を除く）

\* お問い合わせは、大城道則 (ohshiro@komazawa-u.ac.jp) までお願いします。

## 会場地図

